

# 水と京のつながり考える

中京でシンポ 絵の中での表現解説



「くらしと京の水」をテーマに開催されたシンポジウム(京都市中京区・ウイングス京都)

「くらしと京の水」をテーマにしたシンポジウムが24日、京都市中京区のウイングス京都

都で開かれた。講演やパネル展示で、琵琶湖疏水を中心に飲料用だけではなく文化や景観などを含めた水と京都のつながりを考えた。

水環境の改善などに向けて活動する人々の連携を目指す一般社団法人「Com aqua」(左京区)が主催した。

シンポでは、日本画家・橋本関雪のひ孫で白沙村莊橋本関雪記念館の橋本真次代表理事が講演した。関雪や尾

形光琳、現在の画家らが絵の中で水をいかに表現してきたかを解説した。

かつて琵琶湖疏水から水を引いていた白沙村莊が、池の反射光を採光に利用しているとし、「絵を描く時、手元に影があると色の確認ができないことを関雪はきちんと考えていた」と述べた。

京都市の水田雅博上下水道局長による、市の水事情や疏水の活用などの話もあった。

(峰政博)